議事要旨

令和４年度第１回いじめ防止対策推進委員会 概要

1　日 時　　令和４年 10 月３日(月) 午前 10 時 30 分から正午

2　場 所　　京都産業大学　むすびわざ館３階 301 教室（Web 会議）

3　出席者

【委 員】７名（欠席なし）

【府教委】教育監、学校教育課長、高校教育課理事、特別支援教育課長　他

【傍聴者】なし

4　概 要

委員会の決定事項

（1）委員長選出　本間　友巳　委員を委員長に選出

（1）前回委員会の概要について

※説明：配付資料参照

※主な意見なし

（2）令和４年度京都府いじめ調査（１回目）結果について

＜主な意見＞　　※ ○は委員、●は事務局

○特に小学校の校内暴力が全国的に増えていて、いじめの側面と校内暴力の側面と、家庭状況あるいは本人の発達傾向であるというような、精度の高い多面的なア

セスメントが必要なケースが多いという感じがある。

もう一つ異なる意見であるが、オンラインを含む、様々なリテラシーが必要な時代、いじめという形で上がってきているものを深掘りして、具体的にネットを使ってどのようなことがされているのか、分析があった方が良いと思う。

●他の不登校や、暴力行為として対応しているが、実はいじめ行為も該当しているというところは、しばしば見落とされる可能性はあり得ると思っている。
会議終了後に、市町村、教育事務所へ結果を返しながら、注意すべき点を伝えていく場を設けたい。
ネットいじめについて、潜在化しやすいと考えるので、まだまだあり得るものという警戒が大事と考える。
ネットを介した生徒指導事案ということでいうと、昨年度から京都府警と連携し、実際に起きた事案や、事案に関する注意事項を動画を使用して研修という形で流しており対応していければと考えている。

〇いじめという視点が薄いとすれば、校内のいじめ防止対策組織がどのように機能しているのかということとも関わってくるように思う。場合によっては、その組織があまり機能していないと、いじめという視点の方が薄くなってしまうこともある

という風に感じた。

〇未調査の子供たちについてずっとお願いしてきた。現実にはなかなか未調査者の調査が思うほどには進んでいないと感じる。
特に未調査者の中に、相当いじめられて、ひきこもってしまって、事件にはなっていないが、自殺企図も何人もある。いかに幼稚園・小学校の段階で、いじめに手を打っていくか。いじめないという、予防のところをどうしていくかという、とても大切なことを、手立てをして、いじめを受けた子どもたちの大変さ、いじめる子どもたちの大変さももちろんある。いじめにあって、先生方がアプローチができないという方たちは、本当に学校に対して不信感を持っていたり、状態が悪くなっている人達が多い。特に早めに手当をしていくかということは大切なところ。

●未調査を減らすということで昨年度後半からご意見をいただきながら取り組んだところではある。中学校の方はやや減少にはなった。一方、小学校が減るというところまでいけなかった。小学校と中学校、同じ指導助言を、教育委員会からした時に、小学校と中学校の所で表れ方が違っている。認知や対応というところで小学校に、何かしら課題がないだろうかと非常に気にしている。

●一つの要因としては、いわゆる不登校も含め、病気、例えばコロナ回避なども含

め、長期欠席の生徒が増加しているということも未調査が減らない状況の原因としてあるのかというふうに思っているところ。

未調査については、背景に児童虐待、ヤングケアラー、ネグレクト、色々な家庭的な困難さの背景を抱えているケースがたくさん潜んでいると思う。

できる限り細かい状況の把握に努めるようにお願いしていきたい。学校だけの範疇で対応できないような部分もあると思う。福祉、警察等と連携しながらやっていかなければならないようなものがたくさん含まれており、プラットフォームとしての役割を学校としてきっちり果たしているということが大切だと思っている。

〇すごく小学校での暴力が増えている。

発達特性で、加害行動に出ている子たちが目立っていると思っている。加害をしている暴力少年というのは、中学校になると、浮いてしまって、対人関係もうまくとれないので大体不登校、ひきこもる感じになる。

小学校での問題行動に発達的な視点を入れて、介入をして、不登校にならないよう、うまく適応できるような方策をした方が良い。

もう１点は未調査である。

学校側とコミュニケーションが全然取れない状況になっているということだと思うが、中学校で増えているので、中学校で外の支援が入らない状況になっている人たちが増えてるというのがすごく気になっている。

スクールソーシャルワーカーや警察の少年課、特に逸脱したタイプの児童生徒と警察はよくコミュニケーションがとれるスキルを持ってらっしゃる。

〇小学校の校内暴力、全国レベルでもこの 15 年で 20 倍ぐらいに、膨大に膨れ上がってる。ところが中学校上手に抑え込んでいる。

未調査は、逆に考えれば突破口になると思っている。

同時に、不登校の要因を合わせて解析することは、他の不登校、或いはその予備軍へ、アセスメントの視点を広げることにも役立つというふうに思う。未調査に関しては、必ずまなび生活アドバイザー或いはスクールカウンセラーと一緒に学校が 1 回アセスメントをする。視点としては重要と思う。

〇京都府の質問紙が答えづらいと思った。他の自治体も片っ端から見てみたが、ルビがないのは京都府だけで、ほとんどの自治体はルビがある。

自治体によっては、小中低学年のみ、ルビがあったり、少し易しい言葉に変えてあったりする。学習障害や発達障害など、色々な障害のあるこどもだけではなくて、外国人のこどもにとっても見やすいものと思う。このアンケートというものが、こどもの困ってることを解消していきたいというメッセージとしては伝わりにくい。

●小学校での暴力行為、いじめなど、生徒指導事象が増えてるというところが、非

常に大きな課題だと思っている。スクールサポーターやカウンセラー等は、配置は増やしているところ。

未調査のＳＣ・ＳＳＷとのアセスメントを行うというところであるが、仰ったように未調査の部分、そうするべきだと思っているけれどもなかなかそうはいかない部分もあるかもしれない。未調査については一定、アセスメントを連携して取り組んでから回答するということは考えてみたいと思う。

我々からの出している様式にはルビがなく、市町村や学校で、直してから実施するように指導してきたつもりではいるが、なされてないとすれば、非常に答えづらく、結果上がってこない可能性があるかと思う。

（3）重大事態について

＜非公開＞